

2024年1月28日
礼 拜

聖書

ピリピ人への手紙2章5～11節

2:5 キリスト・イエスのうちにあるこの思いを、あなたが
たの間でも抱きなさい。

2:6 キリストは、神の御姿であられるのに、神としての
あり方を捨てられないとは考えず、

2:7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同
じようになられました。人としての姿をもって現れ、

2:8 自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。

2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。

2:10 それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、

2:11 すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。

説教

「この世界に來られたイエスを信ず」

使徒信条からの6回目の説教です。
御子イエスキリストに関しては3回目の学びです。
皆様と一緒に今日も使徒信条を告白しましょう。

使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生れ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につ
けられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、三日目
に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父な
る神の右に座したまえり。

かしこより来たりて生ける者と死にたる者とを
審きたまわん。

我は聖霊を信ず。

聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身
体(からだ)のよみがえり、永遠(とこしえ)の生命(い
のち)を信ず。

アーメン

先々週から

②イエスキリストについての告白、
をテーマに学んでいます。

イエスキリストについての告白は
「我はその独り子、我らの主、
イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりてやどり、
おとめマリヤより生れ、」と続きます。

今日は

「主は聖霊によりてやどり、
おとめマリヤより生れ」

の部分を学んで行きましょう。

今日の説教のタイトルも正式、厳密には
「我は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれた
イエスを信ず」となりますが看板に書きにくいので少
し簡略しました。

イエス様がどのようなお方であるか、
聖霊によって宿られた神の子、神的な面と、
マリヤより生まれた人間的な面の両面をお持ちの
お方を理解していきたいと思います。

ピリピ2:6

キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、
2:7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、
2:8 自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。

神であられるイエス様が、神のあり方をお捨てになって人の姿を取ってこの世界に来てくださったことを学んでいます。

人となられたイエス様はマリヤの胎に宿って人として
お生まれになりました。

マタイ1章にはアブラハムの子、ダビデの子、イエス
キリストの系図、と書かれ、アブラハムダビデの子孫
としてお生まれになりました。

マタイ1章の系図もルカ3章の系図もゼルバベルま
では共通しています。マタイはヨセフの系図、ルカは
マリヤの系図の様です。

神の子が人の世界に来てくださった。

罪の世界に来てくださった。

ヘブル4章15節

4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しましたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。

マタイは冒頭、系図で福音書を書き始めています。

私たちに取っては難しい系図も

ユダヤ人に取っては親しみがああり、この系図の重要性は十分に認識出来、意図も良く分かっていました。

男系の名前の書かれた系図に4人の女性が記されています。

3節 タマル、
5節 ラハブ、ルツ、
6節 ウリヤの妻。

これらの女性は罪の悲哀に巻き込まれた女性、罪の世を代表する方々です。

この罪人の子孫マリヤを通して、聖霊によって罪の無い救い主イエス様はこの世界に救い主として来てくださいました。

聖霊は罪に打ち勝つ力であります。

①タマル

ユダがタマルによってペレツとゼラフを生み、ペレツがヘ
ツロンを生み、ヘツロンがアラムを生み、
(マタイ1:3)

ユダはヤコブの4番目の子、ヨセフを助けることなどして長子の立場をいただきメシヤを送るため子孫を継承する責任がありました。ユダにはエル、オナン、シェラの3人の息子がいて、長男エルにタマルという妻を迎えましたが、エルは子孫を残さずに死に、タマルは次男オナンと再婚。オナンは生まれる子が自分の子にならないので子孫を残そうとせず、神様に打たれて死にました。ヤコブはシェラがタマルのところに行くとき死ぬのではないかと恐れてタマルは何時までも未亡人でした。

ユダは長子の責任、メシヤを産む子孫を残さなければならぬ使命を放棄してしまいました。タマルはこの神様からの使命を良く知っていました。遊女の姿をして、義父ヤコブによって身ごもりペレツを産んで子孫を残し、たすきをつなぐ使命を果たしています。

次の女性は5節ラハブです。

ラハブはエリコを攻略するために調査に入ったヨシユアの部下の斥候をかくまったカナン人の遊女です。民族立場はカナン人の遊女でありましたが、真の神への信仰を持って、斥候をかくまいました。カナン人の遊女ラハブによってボアズが生まれたとマタイは記しています。

次にルツが登場します。ルツは飢饉の時、ベツレヘムから逃れたエリメレク・ナオミの息子と結婚したモアブ人の女。飢饉の中でナオミの夫エリメレクは死に、ナオミの二人の息子もあいつで死ぬ。

ナオミ、ルツ、オルパの三人の未亡人が残された。

ナオミはベツレヘムに帰ろうとした。

オルパは自分の家に帰ったがルツは義母ナオミを支えて知らない地、ベツレヘムに行く。

モアブ人ルツは若くして夫に先立たれても義母ナオミを助けてベツレヘムで生活し、落ち穂を拾ってナオミを助け、有力者ボアズに見初められてボアズと結婚。ルツからオベデが生まれ、オベデからエッサイ、その子がダビデ。

ルツも飢饉、夫に若くして死別、落ち穂を拾う異邦人モアブ人としての悲哀からダビデの曾祖母になりました。

マタイ1章6節

ダビデがウリヤの妻によってソロモンを産み、
これは最大の問題。

サムエル第二11:1

年が改まり、王たちが出陣する時期になった。ダビデは、ヨアブと自分の家来たちとイスラエル全軍を送った。彼らはアンモン人を打ち負かし、ラバを包囲した。しかし、ダビデはエルサレムにとどまっていた。11:2 ある夕暮れ時、ダビデが床から起き上がり、王宮の屋上を歩いていると、一人の女が、からだを洗っているのが屋上から見えた。その女は非常に美しかった。

ダビデはいつも民の先頭に立って戦いをしていました。
この時は気が緩んだのか、油断したのか、戦いに行かず、昼寝をされていて、夕暮れ時、屋上を歩いていると体を洗っている女性の姿が目に入って来た。
ここでとどまっておけばいいのに、王の権力を使ってその女を調べさせた。

11:3 ダビデは人を送ってその女について調べさせたところ、「あれはヒッタイト人ウリヤの妻で、エリアムの娘バテ・シェバです」との報告を受けた。

11:4 ダビデは使いの者を送って、その女を召し入れた。彼女が彼のところに来たので、彼は彼女と寝た——彼女は月のものの汚れから身を聖別していた——それから彼女は自分の家に帰った。

11:5 女は身ごもった。それで彼女はダビデに人を送って告げた。「私は子を宿しました。」

11:6 ダビデはヨアブのところに人を遣わして、「ヒツタイト人ウリヤを私のところに送れ」と言った。ヨアブはウリヤをダビデのところに送った。

ダビデは夫ウリヤを家に帰還させ、身ごもった子がウリヤの子であるように画策をしました。

ウリヤは同僚が戦地で野宿しているのに自分一人家に帰って妻と寝ることは出来ませんと、王宮の前で野宿しました。

ダビデはこの作戦が失敗すると、ウリヤを戦鬪の激戦地の最前線に送り、戦いの最中に部隊を引かせて、ウリヤを戦死させました。ウリヤを殺すことで証拠隠滅を計りました。

ダビデの証拠隠滅の計画は成功したかに見えましたが、人はだませても神様をだますことは出来ません。
神様は預言者ナタンを遣わしました。

12:9 どうして、あなたは【主】のことばを蔑み、わたしの目に悪であることを行ったのか。あなたはヒッタイト人ウリヤを剣で殺し、彼の妻を奪って自分の妻にした。あなたが彼をアンモン人の剣で殺したのだ。

12:10 今や剣は、とこしえまでもあなたの家から離れない。あなたがわたしを蔑み、ヒッタイト人ウリヤの妻を奪い取り、自分の妻にしたからだ。』

ダビデはウリヤの妻バテシエバを奪い、姦淫の罪を犯し、ウリヤを殺す罪を犯しています。

ダビデとバテシエバの間にソロモンが生まれ、ソロモンの子孫にマリヤが生まれ、罪人の子孫マリヤが生まれました。ダビデの家系、系図は決してきれいな家系ではありません。泥だらけの家系です。この末裔のマリヤの胎から聖霊によって罪なき、きよいイエスが宿ってお生まれになりました。

ドロドロした罪を歴代の人が重なり合って、泥だらけ
になって生まれてきたマリヤ。
そのマリヤから聖霊によって罪の無いイエス様がお生
まれになってくださいました。

神の霊、聖霊は罪に打ち勝つ力、罪をきよめる力
に満ちている事の証言であります。